

## 事業者における自己評価結果（公表）

公表：令和7年2月1日

事業所名 放課後等デイサービスあしたのつばさ

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制 整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	4	6	0	・利用定員数が十分に活動できる空間を準備している。活動スペースを広く使えるように物品を置かないようにしている。	・クールダウンする個室も準備しており、充実した環境作りをおしている。 ・安全第一を心がけ、日頃より点検確認をしていく。
	②	職員の配置数は適切である	4	6	1	・勤務表を作成する際にスタッフと話し合い、子供たちの支援が充実できるように考慮している。	・活動によっては、スタッフ人数が少ない場合もあるので、活動内容の見直しをする。
	③	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	1	8	1	・段差や荷物を足元に置かない用に心掛けていく。	・手すりが必要なので手すりを設置を検討。 ・トイレ設備を充実するように話し合っていく。
業務 改善	④	業務改善を進めるための PDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	6	3	1	・日報などで取り組んでいる。	・スタッフ同士、振り返りを行い次回への目標設定・計画・改善の仕組化。
	⑤	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	6	3	1		・結果をスタッフ間で共有し話し合って改善していく。
	⑥	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	3	6	1	・公表をしているが、確認している方が少ない状態。	・利用者に弊社の支援内容をホームページ・インスタで公開している事を伝え、再度伝えていく。
	⑦	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	1	9	0	・外部講師を招いて意見交換を行っている。	
	⑧	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	7	2	1	・他事業所が集まり話し合いの場を確保したり外部講師を招いて毎月会談を行っている。	・各スタッフのスキルアップを図る為、研修等を計画し呼びかけていく。
適切な 支援の 提供	⑨	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	7	1	2	・支援を担当制にし、スタッフが支援に集中できる環境作りを行っている。	・スタッフ目線にならず利用者に面談をしながら計画書を作成する。
	⑩	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	3	6	1	・支援については個別支援計画を参考にしているが、一部のスタッフが確認している状態。	・昼礼時に、スタッフ同士確認したり、支援内容を手に取りやすいように工夫する。
	⑪	活動プログラムの立案をチームで行っている	6	3	1	・役割分担を重視し、スタッフが利用者に対し支援方法を、話し合い意見を出し合っている。	・今後も継続し、短時間で話し合いができるよう時間調整をする。

	⑫	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	5	4	1	・固定化しているが、活動内容を少しずつ変化をし、利用者のニーズに合わせた内容を提供している。	・1人ずつの支援の仕方が違うので、支援内容を考慮し支援していく。
	⑬	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	5	3	2	・1週間の活動を前もってスタッフで話し合い、決定する。同じ活動が多くなるが、作業のスピードが早くなっている。	・目的は、利用者が社会に出ていく為に支援する。スタッフ同士で振り返りの場を設け改善を行っていく。
	⑭	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	7	1	2	・充実した支援が行えるように常に話し合いを重ね、書面に残し支援が行いやすいようにしている。	・スタッフが分かりやすいように書類を作成する。
	⑮	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	8	2	0	・ミーティングを行いその日の支援内容や役割について打ち合わせができています。	
	⑯	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	4	5	1	・送迎が終わり、スタッフで一日の振り返りを行っている。	・終礼時間を設ける。
	⑰	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	8	1	1	・ケースに支援の内容を残し記録している。	・記録に残しているが、改善につなげるように徹底した改善策を定期的に記録の書き方について勉強会を行っていく。
	⑱	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	5	5	0		
	⑲	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っている	3	7	0		
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	⑳	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	5	5	0		
	㉑	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	8	2	0		
	㉒	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	1	6	2	・今の時点は、必要な利用者はいない。	・今後、必要となる利用者に対しての準備等をスタッフで話し合う。
	㉓	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	2	4	3	・情報共有は、お互いに行っている。	・こちらからアクションを起こし、連携を強めていく。

	②4	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	3	5	1	・現時点では、情報提供していない。	・こちらからコミュニケーションをとり、情報提供できる関係性を構成する。
	②5	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	1	4	5	・受けていない状態	・選択理論をベースに、心理士の先生から毎月、研修をスタッフが受けている状態。会社独自の勉強会を行っている。
	②6	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	2	3	5	・現時点では、行っていない。	・地域交流ができていない状態。今後はスタッフと話し合いながら検討していく。
	②7	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	1	5	4		・今後、参加を検討している。
	②8	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	7	3	0		
	②9	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	1	5	4	・現時点では、行っていない。	・カウンセリング等のご希望がある方には、お声掛けし相談を受けている。改善する点は、保護者に幅広く声掛けする。
	③0	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	6	4	0		
	③1	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	6	4	0		
保護者への説明責任等	③2	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	8	2	0		
	③3	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	8	2	0		
	③4	定期的に会報等を発行し、活動概要や行動予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	6	3	1	・時間を決めて利用者に報告する時間を設定している。SNSを使って周知している。	・定期的に、利用者の様子を動画等で発信する。
	③5	個人情報に十分注意している	7	3	0		
	③6	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	6	4	0		
	③7	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	3	6	1		・現時点では、行っていないが今後は、スタッフと話し合い検討していく。
	③8	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	5	5	0		

非常時等の対応	③9	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	6	3	1	・救出の訓練は実施していないが、定期的に避難訓練・消防士による講義を利用者・スタッフが受けている。	・訓練は定期で行えていない。
	④0	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	5	5	0		
	④1	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	4	5	1	・身体拘束の同意書は準備しているが、対象者はいない。	・今後に向け、スタッフで身体拘束についてのマニュアルを共有する。
	④2	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	4	4	2	・現在、対象者はいない。	・利用者の体質については、スタッフ同士把握できるように、細かな声掛けを行っている。
	④3	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	1	6	4	・ヒヤリハットの保管はしているが、共有はできていない。	・終礼時に、スタッフで共有する。

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。